

## 農福連携 JA が橋渡し役に

JA 三原は、本格的な農福連携を始めました。かんきつの収穫作業を試行したところ、農家が正式に作業を依頼。JA はコーディネート役として福祉事業所と協力します。農福連携で農家の労働力を確保し、障がい者らが、活躍を通じて、自信や生きがいを創出することで社会参加を促します。

JA は 2019 年から、農作業を請け負っていた三原市の福祉事業所チューリップの働き掛けで農福連携を始め、試験的に取り組んできました。

福祉施設利用者が、施設外就労として苗箱の洗浄作業や白ネギの収穫補佐、ブドウの摘粒、ほ場の草刈りなど品目を問わず作業に従事しました。施設内作業では、白ネギの選別や計量、ブドウのパック詰めや箱詰めなどを行いました。

ブドウの摘粒は、経験を必要とする難しい作業ですが、園主の指導を受け、経験を積み、1 区画を任せられるまで技術が向上した利用者もいました。

JA は農家や農作業を事業所に紹介し、調整役を担います。初めは JA 立ち合いのもとで農作業を体験してもらい、農家と事業所の双方の評価で作業の適否を判断します。作業の受委託は、農家と同事業所が直接協議し、作業の指導補助や課題は JA を交えて協議します。

新たな取り組みでは 12 月上旬、同市須波町のミカン園で市内の福祉事業所から福祉施設利用者 11 人が収穫を体験しました。同市の障がい者福祉担当部署や福祉事業所などで構成する「自立支援協議会」の呼びかけで、チューリップを含む四つの福祉事業所が参加しました。

福祉事業所に作業委託する農家の課題を整理し、活躍の拡大や分業化による労力の軽減と確保に繋がります。

